

偕楽園復興の2年

とも
たの
偕に楽しむ

第10号
偕楽園公園を
愛する市民の会

偕楽園・弘道館復興支援の会を立ち上げ

平成二十三年の総会を準備する役員会の際、東日本大震災で被災した偕楽園と弘道館の復興に向けて本会でも何かする必要があるのではないかと意見が出され、役員有志が検討し、復興募金をよびかけることになりました。国や県の復興への取り組みがあるものの文化財の復興は遅れるのではないかとの懸念があり、そこを補うのが市民の活動であると考えたからです。



弘道館前で募金日に五〇以上の団体の参加を得て偕楽園・弘道館復興支援の会の発起人会が開催され、和田会長・湊副会長がそれぞれ会長・副会長に就任し、事務局にも本会役員が加わりました。

偕楽園全面復旧記念式典

平成二十四年二月九日、偕楽園全面復旧記念式典が茨城県主催で挙行されました。折からの氷雨の中、好文亭入口前の広場にテントを張り、多くの関係団体・市民団体から多数の参加者がありました。

主催者として橋本昌茨城県知事が、偕楽園復旧の取組みの経過を報告し、「水戸の梅まつり」を前に偕楽園を全面再開することがで

きたことを喜び、偕楽園の復旧が風評被害に苦しむ本県観光の復興に大きな力になるとの期待を述べられました。最後に復旧にかかわった人々、偕楽園・弘道館復興支援の会をはじめ、支援、協力をいただいた方々へのお礼の言葉がありました。



橋本県知事があいさつする。偕楽園・弘道館復興支援の会と連携して、復興支援の会々々長として、和田祐之介会長が募金活動への取り組みと達成を述べるあいさつをしました。

式は来賓紹介の後、テープカットで閉会しました。

その後参加者は復旧なった好文亭の披露に参加しました。復旧工事に参加した県職員が要所で復旧の内容や問題点を説明し、参加者から感想や希望を述べるなど、有意義に視察することができました。ひびが残っている箇所と修復したところが微妙に対比され見事に修復されたことに関心させられます。とはいえ、廊下の床板の張り替えなど新築のような装いにやや戸惑うところもありました。

復興支援の会和田会長挨拶

「偕楽園・弘道館」は、このたびの大震災によって大きく損壊しました。一刻も早く復興したいという沢山の方々の声をお聞きし、昨年四月中旬に「偕楽園・弘道館復興支援の会」を立ち上げました。



和田会長が挨拶する。偕楽園・弘道館復興支援の会を立ち上げました。

十一月ヶ月経過した平成

弘道館の復旧と偕楽園の新施設

弘道館は国の特別史跡であるため、修復には慎重な手順が踏まれました。比較的修復が容易な築地塀の復旧が二十四年末に終わり、二十五年二月には孔子廟本殿の復旧が完了し、特別公開されました。二十五年一月から国の重要な文化財である弘道館正庁・至善堂等の本格的な復旧工事が始まりました。二十六年三月までには復旧が完了する予定です。

偕楽園では、本園内東門脇の旧東門売店「見晴亭」の跡地に「偕楽園インフォメーションセンター」(仮称)が来年二月完成に向けて建設することが決まりました。この施設は、床面積一六〇㎡の木造平屋建てで、観光案内や休憩、救護などに使われる予定です。ボランティアガイドや関係者から要望が強く、復興支援の会の要望にもあつた施設です。偕楽園の通年観光や非常時の対応の拠点としての機能をも果たすこととなります。復興支援募金の残額が建設資金の一部に充てられます。



「偕楽園インフォメーションセンター」支援の会の要望にもあつた施設です。偕楽園の通年観光や非常時の対応の拠点としての機能をも果たすこととなります。復興支援募金の残額が建設資金の一部に充てられます。

水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力を子供たちに伝える活動

日本ユネスコ協会「第4回プロジェクト未来遺産」に登録

平成二十四年十二月三日、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟から当会の「水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力」を「第4回プロジェクト未来遺産」に登録することが発表されました。



公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
プロジェクト未来遺産2012
水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力を
子どもたちに伝える活動茨城県水戸市

未来遺産運動とは「100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動」です。また、プロジェクト未来遺産は「長い歴史遺産や自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産という豊かな贈り物に光を当ててそれを未来に伝えていこう」という人々の意欲を活性化させることにより、時代を切り拓いていこうとするものです。(詳細は日本ユネスコ協会連盟のホームページ <http://www.unesco.or.jp/>)

平成二十五年三月二日、水戸市総合教育研究所三階視聴覚ホールで日本ユネスコ協会連盟の主催により「第4回プロジェクト未来遺産」の登録証伝達式が開催されました。同連盟の選考委員矢野和之氏から和田会長に登録証と目録が伝達されました。その後、茨城県教育委員会小野寺俊教育長、高橋靖水戸市長、水戸市教育委員会本多清峰教育長および水戸ユネスコ協会宇佐見恵子会長からお祝いのご挨拶をいた

登録証伝達式

水戸市教育委員会の推薦をいただき、本会は「弘道館親と子の論語塾」と「偕楽園なんでも百科」の刊行と普及活動を中心にプロジェクトに応募しました。登録されることにより、会の活動をおおぜいの人に知っていただき、賛同者が増えるだけでなく、偕楽園・弘道館の世界遺産登録へ市民の支持と熱意を示すことになると考えたからです。



登録証の伝達

お祝いのご挨拶をいた



撮影記念として、水戸市のマスコットキャラクター「みとちゃん」がかけつけ、和田会長から高橋市長へ贈呈する目録が渡されました。

偕楽園と弘道館の世界遺産登録を支援します

水戸市では偕楽園と弘道館を世界遺産に登録する運動を進めています。今回の当会が認められたプロジェクト未来遺産への登録は、これと直接つながるものではありません。しかし、当会の活動を「水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力」を子どもたちに伝える活動」として、同じユネスコに属する民間組織から認められたことが、水戸市の世界遺産登録運動を市民団体が側面から応援することになります。今後当会の行事で偕楽園と弘道館の世界遺産登録を支援していこうと思います。

また、「広報みと」の行事予定を見た水戸市城東居住の齋藤哲夫氏から貸与していただいた、自作の「好文亭模型」を展示しました。ワークショップは期間内の土、日、祝日に前年と同様拙誠会の各流派による「茶の湯を楽しもう」を実施し、和やかな憩いの場となりました。また土・日・祝日に、「親子工作教室」不思議な鳥のフーちゃん(小菅次男副会長)「偕楽園公園の親子植物観察」(木村義明理事)、「偕楽園と千波湖の今・昔」千波湖が残っているわけ(大槻功副会長)、「梅と桜のなんでも百科」(宮嶋敬夫顧問)、「偕楽園被災から復旧」現地案内(根本涉茨城県偕楽園公園センター職員)のワークショップが開かれました。事前の宣伝は前年とほぼ同様でしたが、「広報みと」の案内を見て来場される人が増えました。また、秋まつりの期間と重なっていたので、ウォーキングの途中に立ち寄ったり、ガイドの人びとが休憩に寄るなど、関係者の見学が多くありました。見学者は全部で約五五〇名でした。



好文亭模型
水戸市城東居住の齋藤哲夫氏から貸与していただいた、自作の「好文亭模型」を展示しました。



親子工作教室
ウォーキングの途中に立ち寄った

『偕楽園なんでも百科』 好評で増刷、展示会

こんな本が欲しかった

『偕楽園なんでも百科』は平成二十三年四月に三〇〇〇冊を発行しました。うち七五〇冊を水戸市に贈呈し、市内の全小学校に二〇冊ずつ、図書館や市民センターなどにも数冊ずつ配布しました。また、資料提供者と水戸市内で観光や教育・文化に携わっている関係機関・団体などにも配布して活用されるようお願いし、残部を、会員や活用を望まれる方に印刷実費（五〇〇円）で配布しました。

東日本震災で

偕楽園と弘道館が被災し、見学できないという不利な状況でしたが、多くの人から「偕楽園の全体像と魅力を広く伝えてくれる今までにない偕楽園の案内書」として歓迎され、受け入れられました。

この評判を受け、常陽銀行から支援を受けて二十五年三月に一〇〇〇冊の増刷を行いました。うち六〇〇冊は水戸市に寄贈して各学校に配布します。

授業の教材・講習のテキストに

小学校の先生にも歓迎され、社会

科の郷土学習、道徳の「斉昭の梅」の学習、総合学習などで、授業の参考になったという声があがっています。貸出教材用として一〇〇冊を用意し、実際の授業の参考に使用されたり、市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」が出前授業で使用するにも行われています。

偕楽園で「偕楽園記」を暗唱したり、ガイドする「こども梅大使」の活動が平成二十三年に五軒小学校児童によって始まりました。二十四年度には五軒小学校に加え、市内の中学校一六校の生徒約三百名も梅まつりでボランティア活動として取り組みました。その活動にあたり、予備知識教育として「歴史アドバイザー水戸」が貸出教材用の『偕楽園なんでも百科』を用い、冊子を手に実物と写真を対比しながら園内を巡りました。非常に有効な活用方法だとの感想が寄せられています。

平成二十三年展示会

茨城県から偕楽園公園センターに展示場所を借りることができたので、偕楽園の魅力を多くの人に、とりわけ小中学生に伝えようと『偕楽園なんでも百科』のパネル展示と親子で楽しめるワークショップを組み合わせた展示会を企画しました。偕楽園公園センターは、偕楽園のビジターセンター



偕楽園公園センター
「茶の湯を楽しもう」
ワークショップを組み合わせた展示会を企画しました。

として平成八年に丸山の隣に新築され、偕楽園公園全体の管理事務所と展示室のほか梅と緑の相談室、講習会場、ミニ図書館があります。堂々とした和風の建物で、目立たない場所にあつてあまり知られていないのが残念です。

平成二十三年は九月二十一日と十月二日の二週間開催しました。常磐大学水嶋英治教授の協力で布に印刷したA〇版大の『偕楽園なんでも百科』のパネルと同教授や偕楽園事務所から提供していただいた震災被害の写真パネルを展示しました。展示を見学した人は、偕楽園の多彩な姿、多様な魅力に触れて驚いていましたが、中でも偕楽園をよく知っている人の「これは初めて知った」という言葉はうれしく思いました。



親子でパネルを見る様子
「偕楽園なんでも百科」のパネルと同教授や偕楽園事務所から提供していただいた震災被害の写真パネルを展示しました。

「茶の湯を楽しもう」は、偕楽園好文亭で茶会を開いている拙誠会の協力で水戸観光協会の支援を得て、期間内の土、日、祝日に会議室で行なっていました。裏千家、江戸千家、石州流、遠州流、表千家実施日順の茶の湯を来客にふるまっていたきました。点茶の指導もあり、好文亭を支える茶の心を偲びました。



「茶の湯を楽しもう」
偕楽園好文亭で茶会を開いている拙誠会の協力で水戸観光協会の支援を得て、期間内の土、日、祝日に会議室で行なっていました。

さらには、土、日、祝日の午前か午後の一時間三〇分〜二時間に次のワークショップを行いました。

- ・「偕楽園を歩いて楽しもう」（市民観光ボランティア「歴史アドバイザー水戸」）
- ・「偕楽園をつくった斉昭公ってどんなひと？」（久野勝弥副会長）
- ・「偕楽園公園の自然観察」（小菅次男副会長・木村義明理事）
- ・「偕楽園の歩み」（宮嶋敬夫顧問）



自然観察の出発
自然観察に参加したり、チラシを見て見学に来た先生や親子づれもいました。学校行事のたて混む時期であったことなどから、児童はあまり多くありませんでした。見学者は、茶の湯の参加者、周辺を散策する人や、桜川駐車場から通りかかる人が主で、全体で約五四〇名でした。

平成二十四年展示会

平成二十四年九月四日〜十七日の二週間、前年と同じ偕楽園公園センターで「偕楽園開園一七〇年記念―偕楽園の復旧を記念して―」と題して展示会を行いました。

展示は「偕楽園なんでも百科」のパネルと偕楽園の復旧事業パネル。